

十二月二一日

昨日の疲れで朝はゆっくりと眠った。午後大学へ。中国葫芦島都市計画コンペ応募案最終チェック。パネルプレゼンテーションもコンピュータビデオも共に良く出来ていた。十五時半NHKTVの番組作りの相談。十七時より他大学その他の学生相談。

十二月二二日

八時三〇分過TVのクルーと新宿西口発。伊豆西海岸安良里へ。十二時前安良里着。オープンテックハウス 3 藤井晴正邸現場。良く出来ていた。松崎町森秀己宅、父上逝去で霊前に線香。母上にも久し振りにお目にかかった。

十五時ハンマ邸上棟式百三〇kgのモチをまく。沢山の安良里の人々が集まってくれた。³のフレームワークは上々の出来だった。あの屋根の構造を生かした内外装で仕上げれば良い。上棟式後会場を移し宴会。ハンマの父上兄上と飲んで祝う。

昔、良く一緒に松崎で遊んでいたサブちゃんが一日黄金崎から飛び降りて自死したそうで、今日同じ十五時から葬式だった。死ぬ勇気があるのなら、はじめにでも良いから生きて欲しかった。サブちゃんの鉄工場はベトナムに仕事を取られてしまい閉鎖、それからウツ状態落ち入っていたそうだ。日本の産業の危機的状況の典型が松崎町のような言わば辺境の小さな町にまで及んでいる。冥福を祈る。二二時過世田谷に戻る。

十二月二四日

明日から北海道。今日は今年のシメのミーティング。昨日電話で真栄寺の馬場照道和尚から、健さんも心配だけど石山さんも最近疲れが表に出てる。本当に気をつけてと言われたのが気になる。しかし気にしたって仕方ないことでもある。面白いことが無いと疲れるのだ。

十二時過学科会議室。十五時内閣府で沖縄の件。十七時過世田谷戻り。幾つかの打合わせ。スタッフの多くにそれ程期待はしていないが、失望は深い。

十二月二五日

朝家内に送ってもらい羽田へ。十時四〇分発の飛行機で帯広へ。中里和人との取材と、スノーボートの現場監理。十二時過帯広空港着。現場へ。仮設には大きくて頑丈に作ったな。何とかなるだろう。十九時三〇分カニ大将で食事。銀河のソバ屋へ。ネパールの話しをオヤジにする。北海道ホテル泊。

十二月二六日

朝、モール温泉につかる。快晴である。十時後藤氏にスノーボート完成に向けてのメモ渡す。取材で然別湖を訪ねるも、氷のギヤラリーはまだほとんど出来ていなかった。十三時、白樺レストランにてジーンギスカン。十四時スノーボート現場に戻る。向井柴原の作業はほとんど進んでおらず。呆然とするがマ、仕方ないだろう。中里氏撮影の為室内を整理する。なんとか絵になるようにはした。昨日の状態とは全く違う。不思議なものだ人間の眼は光の具合も良かったのだろう。今日のスノーボードは被写体とし

てはマア合格だった。二〇〇三年の作品¹のスノーボートはもう少し金をかけてつめるところをつめれば面白い可能性を持つだろう。特に材料の面で。ヘレン・ケラー記念塔のすぐ近くの防風林をタテにして、雪原に浮かぶスノーボートは今次第に関心を深めている脱都市のイメージをほのかに持っている。それが農作業小屋風であるのかは我ながら適確な筋だろうと自負しているのだが、チヨツと飛び過ぎていて筋の行先ではある。

只今二〇時くらいかな。十勝発最終便で東京へ飛んでいる。来年は十勝でもう少し建築らしい仕事をしたいものだ。二一時半羽田着。二二時世田谷村に戻る。地下で打合わせ二四時上にあがる。明日は何から手をつけたら良いのやら自分でも整理がつかない。北海道に行っている間に馬場照道からTELがあつて、どうやら佐藤健が面会謝絶状態になった様だ。今日に全力を尽したい。誰も明日を保証されているわけではない。

十二月二七日

ガレージハウス、^{ゼロ}プロジェクト共にそろそろオペレーションを与えなくてはどうにもならない。昼前毎日OBの大住さんから電話アリ、いよいよらしい。東大病院へむかう。十二時過東大病院。当然一四〇二室は面会謝絶だが抜道より入り込む。毎日新聞の連中が三、四人隣室にたむろしていた。佐藤健は意識が無く、人工睡眠状態だった。肺がすでに機能しておらず、その痛みで点滴その他のチューブを引きむしる状態になったと言う。それで本人と家族の同意を得て、つまり意識を失くして人工睡眠状態をつくり出し、それで短い睡眠状態を得ているらしい。意識がある時に、居合わせた人に一言述べたらしい。

「面白かった」

これが絶句だ。

コンコンと、しかし荒々しく肩を震わせながら眠り続ける健に、もう何も言う事はない。生きて会うのも最後だ。ガリガリにやせて眠りこける肩をたたいて、何も言う事なし。健さん俺も「面白かったよ」

十六時前、東大病院を去る。年末で、通夜葬儀のことは大住さんと照道和尚に任せるしかない。さびしくなるぜ。

十二月二八日

朝六時半世田谷村発。富士山聖徳寺現場へ。八時十五分上九一色村聖徳寺現場着。九時ヨリ現場説明会。十一時迄七社に説明。十二時過、中川さん別荘へ。鉄骨工事の契約。十三時過造園業者と面談。僕のどうしてもゆずれないポイントを述べる。十三時半発。十五時過世田谷村へ戻る。十六時発中央林間へ。十七時森の学校打合わせ。佐藤健はまだ生きていてくれるのだろうか。二〇時過修了。

世田谷村へ向かう。向かうと言つても、向かう先に何が確固としてあるのかな。

二十一時過世田谷村着。同時に毎日新聞滝カメラマンよりTELあり。親友佐藤健死去の報。数秒程絶句。二十時十六分だったそう。二日前に別れはしたつもりであった。が、悲しい。恥をしのんで……。欠落、脱落、身心脱落脱落身心程のことはないが、こんな悲しい事はない。今年は悲しい事が続くな。

十二月二九日

健さんは最後の最後まで大騒ぎさせてくれるよ。十二月三一日七時に酔庵に健さんは帰る。元旦にかけて仮通夜。三日真栄寺で

通夜。四日告別式。お別れの言葉を言う役を振られた。十時地下へ。昼過大学へ。

午後野田邸工事遅れのおわびとこれからのスケジュール打合わせ。十五時M2修士論文・修士設計のチェック。淡路の山田脩二出現、打合わせは突如宴席となる。こんな事も、今では珍しい事なんだろうなの実感を持ちながらしばし脩ちゃんに附合つ。

十二月三〇日

十一時渋谷。西谷学科主任と待ち合わせ。十二時田園都市線あざみ野駅で白井早大総長と会い。近くで昼食。沖縄、上海の件等の相談。総長の話に出たヴェネチアの早大は建築学科で使えるだろう。来年の9月からか。午後遅く世田谷村へ、流石に少々つかれた。

月並みだが今年を振り返るに、何ともせわしく色々な事が起きた。記憶というのは不確かなもので起きた事のリンクをほとんど明晰に思い出す事ができない。闇雲にバタバタ動き廻っても収穫できるモノは少ないのはすでに知り尽くしている筈だが、まだクセが直らないのだろう。しかし僕の場合ジタバタするのが自然なのだという風にも考えられる。佐藤健の死に方を見ているとそう思うな。もう、この年でクセは直らないだろう。

十二月三一日

早朝の空の雲が例えようもなく美しかった。寝ながら雲の往来を見て、今年もようやく暮れたなと一人ホッとす。昼間は本当にゴミになって床にゴロゴロ転がって眠っていた。

十九時過磯崎宅へ。磯崎さんとは久し振りなような気がする。

彼の知性そのものを楽しみたい。明日は佐藤健の弔辞の草案をつ

くらねばならんな。

二〇時磯崎宅。滅法うまいシャンペンを暮明けに飲み始める。音楽家の細川さん他同席。細川さんも磯崎同様相変らず世界を駆け巡る日々のようだ。磯崎さんがゆでたそばを存分にいただき、ワインから強い酒に移る間もなく除夜の鐘。様々な事があつた今年も暮れた。